

# 常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデー開催 サッカーで地域社会の活性化を図る



◀エスコートキッズを務めた、常磐大学幼稚園の園児たち。かわいらしい笑顔に、東日本大震災の影響が残るスタジアムが癒された。

**学** 校法人常磐大学は、連携協力協定を結ぶ株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホックのホームスタジアムへの観客を増やし、そのにぎわいを地域活性化につながる取り組みを行っている。その一環として、8月21日に行われた対FC岐阜戦のホームゲームを「常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデー」として開催した。この企画のコンセプトは、学校法人常磐大学が設置する各学校の学生や生徒、園児らが、水戸ホーリーホックの試合運営およびイベントに参加・協力し、訪れる観客にスタジアムでのひとときを楽しんでいただくこと。学生や生徒、園児らが、地域と一体となった活動に参加することで、豊かな人間性を育む効果も期待される。

当日は小雨まじりの天候となったが、学生たちが運営する夏祭りイベント会場の多目的広場やスタジアムには多くの家族連れなどが訪れ、行く夏の日を楽しんでいた。

### 夏祭りイベント

- 人間科学部健康栄養学科 Presents
  - ・ さくら亭コラボ商品販売
  - ・ ネバネバうどん、サクサクコロケ
- 国際学部経営学科 Presents
  - ・ ミニフットサル/キックボウリング<sup>2</sup>
  - ・ 爆熱サッカークイズ
  - ・ ヨーヨーつり
  - ・ フェイスペイント<sup>3</sup>
  - ・ ホーリーくんぬり絵
  - ・ 萌え萌えホーリーホック“コスプレイベント”

### ピッチイベント

- エキシビジョンマッチ
  - ・ 常磐大学高等学校女子サッカー部 vs 栃木県立宇都宮中央女子高等学校サッカー部
- 吹奏楽演奏
  - ・ 常磐大学高等学校吹奏楽部
  - ・ 常磐大学吹奏楽団&おんぶの会 (OB会)

### 運営コラボレーション

- チアダンスパフォーマンス<sup>4</sup>
  - ・ 常磐大学高等学校チアリーダー&Holly Kids
- スタジアム運営協力・スタジアム運営ボランティア
  - ・ 常磐大学・常磐短期大学学生
- ボールパーソン・担架隊
  - ・ 常磐大学高等学校男子サッカー部
- フェアプレーフラッグベアラー<sup>5</sup>
  - ・ 智学館中等教育学校
- エスコートキッズ<sup>1</sup>
  - ・ 常磐大学幼稚園



## 学びの環境や学生生活の現状を知ってもらう機会に

### ● 常磐大学・常磐短期大学 保護者会共同開催

7月2日に保護者会が開催され、275人の保護者が参加した。今年度は講演会や学生発表、学食体験、学部学科別懇談、施設見学などが企画され、保護者が常磐大学・常磐短期大学への理解を深め、疑問・不安を解消する機会となった。

講演会では、短期大学の安田尚道教授と大学の卒業生で茨城県経営者協会の後藤泰男氏から「就職活動の現状と本学学生の可能性」と題した講演が行われた。実体験に基づく就職活動の話に、参加者からは、親として我が子にどのように接するか再確認できたとの声も聞かれた。続いて代表の学生が学習の成果や課外活動の取り組みについて発表。学生が頑張っている姿を見て、日頃の学びや成長を感じた保護者もいたようだ。

普段、大学に来る機会の少ない保護者にとって、我が子がどのような環境で何を学んでいるか心配になることだろう。昨今の社会情勢を反映して、就職活動の状況や支援内容への関心も高い。大学としては、教育内容の充実はもとより、学習環境の整備や学習・就職支援にも注力するとともに、保護者に対して分かりやすく情報を伝える努力を今後も継続していく考えだ。



## 「第11回 アジア地域大学院コース」がインドネシアで初の開催

### ● 常磐大学国際被害者学研究所が共催



▲法学部棟で記念撮影。前列向かって右端にファチリ・ベイ博士とヘル・スセチョ講師。

第10回コースが開催された昨年8月、インドネシア大学から毎回参加されているファチリ・ベイ博士が、さまざまな理由で来日できない多くの学生や研究者のために、ぜひとも次回コースをインドネシアで開催させてほしいと提案。その後、ファチリ・ベイ博士や門下のヘル・スセチョ講師らの努力で準備が進められ、2011年7月、初のインドネシア開催が実現した。

会場となったインドネシア大学は、首都ジャカルタの南に隣接するデポック市に、緑豊かな広大なキャンパスを擁するインドネシア屈指の国立総合大学。今回は、インドネシア大学法学部の全面的な協力の下、「インドネシア証人・被害者保護機構」も共催団体に加わり、世界被害者学会、常磐大学国際被害者学研究所を含め4者共催での開講となった。

研究所からは、ジョン・ドゥーシッチ所長のほか、キーラン・マンディー次長、ゲルド・キルヒホッフ教授、前小屋千絵専任研究員が講師兼コーディネーターとして参加。インドネシア内外から参集した受講生約40人と、被害者学・被害者支援の最先端の知識を共有しながら交流を深めた。

法学部の敷地には、講師の名前を連ねた大きな広報幕が出現。法学部の学生や若手講師らが、コースの準備・運営に熱心に取り組んだ様子が随所にうかがえた。これまで常磐大学でのコースに参加した学生や若手研究者も、「Mito Family」として運営をサポート。コース初日のレセプションでは、ファチリ・ベイ博士が「インドネシア被害者学会」設立を発表し、被害者学の発展に意欲がある人々の輪が、着実にインドネシアにも受け継がれていることが強く実感された。



▲質疑応答で議論に加わるキルヒホッフ教授。後方にはオランダから駆けつけた世界被害者学会会長のマーク・グルーエンヒュイセン教授(写真左)。共催4団体のロゴが付された会場前の横断幕(写真右)。

## グローバル化の中での英語指導法を提言

### ● 教育実践研究所が英語教育講演会を開催

常磐大学教育実践研究所は、5月28日、智学館中等教育学校において英語教育講演会を開催した。テーマは「グローバル化の中での英語指導法について」。効果的な英語指導法に関して、専門家から具体的かつ実践的な提言をいただき、今後の英語教育の指導法向上に資することが目的だ。当日は講師として、慶應義塾大学環境情報学部教授・学校法人常磐大学参与の田中茂範氏、文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室教科調査官の向後秀明氏のお二人をお招きしお話を伺った。

田中氏は「小学校の英語教育とその指導法」をテーマに、絵本の可能性やテレビ・インターネットの利用法などについて提言。また、向後氏は「英語の授業は英語でやろう!」

をテーマに、学力とは何か、また英語で授業を行う意味などを解説。英語教育の実践に役立つ貴重な講演会となった。



▲講演を行った田中茂範氏(写真左)と、向後秀明氏(写真右)。

## TOEFL iBT 受験準備コースを実施

### ● 教育実践研究所がグローバルな人材育成支援プログラムを提供

常磐大学教育実践研究所は8月17日から26日までの10日間、TOEFL iBTの受験対策集中コースを実施した。これは、本年2月に一週間の期間で実施された企画の第2弾に当たる。TOEFL iBTのスコアは海外留学の基準である。

土・日をはさんで行われた今回の「夏コース」は、中間に模擬テストやバーベキューパーティーを盛り込み、短期集中型の勉強意欲を鼓舞しながらも、参加者の満足感・充実感に繋がる工夫を施した。最終日にはコース修了者に、修了証(certificate)を授与し、2月のコースの時に好評だったドーナツパーティーで締めくくった。全員とはいかなかったが参加者の内から5人が、その2日後に常磐大学を会場にして行われた、TOEFL iBT本試験に挑んだ。試験時間4時間半、長丁場の難行苦行といわれる試験である。

インターネットを介しコンピューター上で行われるTOEFL iBTが導入されて以来、日本人のTOEFLスコアは、東アジアの主要諸国中最下位である。日本人学生にとってこのテストが難しい理由はいくつかあり、よく言われるのは、スピーキングの能力が低いこと、タイピングやコンピューター操作に不慣れであること等である。

参加者21人の内訳は、東京の大学生7人を含め、外部から、大学・高校生・一般が14人、学内からは智学館生徒1人を含め7人であった。ちなみに常磐大学は、茨城県で唯一、TOEFL iBT 試験会場の指定を受けている。



## 大切な人を失った悲しみに向き合う ―悲嘆の理解とケア―

### ● 心理臨床センター公開講演会を開催



常磐大学心理臨床センターの主催による公開講演会が、7月24日に開催された。この講演会は、心理臨床センターの地域貢献活動の一つとして毎年開催されており、今回で11回目となる。今回、講師としてお迎えしたのは(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所成人精神保健研究部犯罪被害者等支援研究室長の中島聡美氏。東日本大震災の被災者が抱える心の問題に自ら取り組む中島氏に「大切な人を失った悲しみに向き合う―悲嘆の理解とケア―」をテーマに講演していただいた。

講演で中島氏は、大切な人を失ったあとの深い悲しみ「悲嘆」が起こる心理作用や悲嘆反応の推移、また、身体や行動に及ぼす影響などを分析。悲嘆と向き合い回復することの難しさや、妨げとなる要因などを解説し、悲嘆の理解や周囲の人たちが行う支援の重要性を提言した。東日本大震災の被災者の現状を踏まえた中島氏の講演に、会場の受講生は熱心に耳を傾けていた。



▲一般の方や学生など、約180人の受講生が会場を訪れた。

▲講演を行った中島聡美氏は、常磐大学コミュニティ振興学部助教授を2003年まで務め、被害者支援活動にも取り組んでいた。

## Tokiwa Interview

## 大学の質の保証を実現する改革とは

高祖 敏明 氏

(学校法人常磐大学理事)

社会環境の急激な変化に伴い、教育機関もさまざまな課題に直面している。グローバル社会における学生に対する企業ニーズの変化、18歳人口の減少、学位の国際的通用性。これら諸問題に対応するため、大学にはどのような改革が求められているのか。学校法人上智学院理事長の高祖敏明先生にお話を伺った。

「中央教育審議会がまとめた『学士課程教育の構築に向けて』という答申に、いくつかの方向性が示されています。まず、『学位授与の方針について』。これは、卒業に当たっての学生への学位授与の方針を明確化・具体化し、育成目標とする人物像を学内外に開示しましょうということ。次に『教育課程編成・実施の方針について』。ここでは、各科目ごとの相関性を考えた順次性のある体系的カリキュラムの編成などを提言しています。そして、『入学者受け入れの方針について』。大学が求める学生像を明確に打ち出し、大学と受験生、相互の希望に合った受け入れ方針を作りましょうということです。つまり、職業との接続、大学の教育課程、高校との接続の3つを体系的に連動させることが、この答申の基本的な構造だと捉えられると思います」

大学の質保証に関する取り組みは、国によってある程度その枠組みが示されているということだ。

「制度の枠組みを作ることは、もちろん重要です。しかし、それだけでは不十分だと思います。そこに必要なのは、制度的な改革に魂を入れることであり、それを果たすのが各大学です。その一環として取り組みたいのが、学生の学習意欲の向上。自分の学んでいる科目が、どういう目標につながっているのかを意識させることで、学生の心に火をつける。学習目標の明確化とフィードバックにより、将来の展開を見せることも重要です。そして、学生自身による自己評価も習慣づけること。日本の教育の在り方は、

生涯学び続ける人材を育成するために。

評価するのは先生だということが身に付いている。しかし、評価は自分自身で行うことがベースにならなくてはなりません。もちろん、大学も教育内容や方法の質を高める必要があります。各学科が連動したプログラムを編成することや、学生が学んだ学習成果と教員が教えた教育成果を比較し検討してみることも大切です。そして、これらを実現する要素となるのが教員の質です。学部・学科が一体となって取り組むと同時に、教員一人ひとりが自分の授業がどういう役割を担うのかを理解し、授業の組み方を考える。また、教育や学習を支援する環境づくりも重要です。施設・設備、さらには事務職員を含めた支援体制を整える。教員の使い勝手だけではなく、学生が学びやすい環境を作ることがポイントになると思います。そして、学生がその大学で学んで成長したことを実感したとき、初めて自分の大学を誇りに思えるのではないのでしょうか」

しかし、大学の質を保証する仕組みを作ることは、高校や企業の理解と協力も必要になる。

「まずは、できるところから始めることだと思います。新入生の初年次教育に力を注ぎ、企業や社会が求める学士力を養う授業を行う。そして、学ぶことの楽しさと学び方を教えることで、生涯学び続ける人材を育成することが大学の役割だと思います」

学生の質の低下が問題視されることもある。しかし日本人の潜在能力は高く、鍛えれば必ず伸びると高祖先生は語っていた。



こうそ・としあき ● 上智大学大学院文学研究科博士課程満期退学。上智大学文学部教育学科教授、文学部長を経て、1999年学校法人上智学院理事長に就任。上智大学総合人間科学部教育学科教授。日本学術会議の「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」で副委員長を務め、「大学卒業後3年程は新卒扱いに」という経団連への提言に尽力。カトリックイエズス会の司祭でもある。

**【企業動向】**

2011年3月11日に起こった未曾有の東日本大震災の影響により、2012年3月卒業生の企業の採用活動は約1カ月遅れで始まり、第一の山場を越えた。震災の影響により、採用を抑制している企業もあるが、大手企業では被災地採用枠を設けるなどして、例年より採用数を拡大したり、採用活動の延長を行ったりしている。

**【学生動向】**

震災により精神的なダメージを受けた学生などもおり、企業が採用活動を再開してからも就職活動の停滞している学生がいたが、徐々に活動を再開し、内定状況も例年の約1カ月遅れの状態まで追いついてきている。厳選採用の傾向は例年と同様で、更にUターン学生との競争が増しているため、準備不足の学生は苦戦を強いられている。未内定者は、今までの就職活動を振り返り、次のチャンスに生かすとともに、粘り強く頑張ってもらいたい。

**【キャリア支援の取り組み】**

未内定者には、窓口相談、履歴書・エントリーシートの指導、模擬面接などを更にきめ細かく行い、求人開拓情報の発信なども行っていく。

2011年4月よりキャリア支援センターとして独立し、初の試みとして7月中旬より「就職試験筆記対策講座(基礎)」を大学1年生から3年生と短大1年生を対象に開講している。企業の採用試験の際に筆記試験として取り入れられているSPIや、GAB、公務員試験などで出題される英語、国語、数学、社会の基礎的な内容を盛り込んだ112回のプログラムである。学生は、毎回の参加はもちろんのこと、自分の弱点である内容だけを選択しての参加も可能である。参加学生は各回とも25人前後で、皆真剣に取り組んでいる。

また、公務員試験受験のための勉強の方法や疑問点をフォローアップできる場を数人の有志の先生方の好意で設けた。利用学生は数人であるが、「就職試験筆記対策講座(基礎)」と併せて、学習の支援を行い体系化させていきたい。

**内定者レポート**

**環境は厳しくても  
着実に活動すれば  
必ず結果は出ます。**

**岡田 健志郎**  
常磐大学国際学部経営学科4年

**●東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) 内定**

就職活動を始めるきっかけとなったのは、キャリア支援センター主催の就職支援バスツアーで、東京ビッグサイトの合同企業説明会に参加したこと。まだ11月だというのに東京の学生は意識が高く、大変刺激を受けました。その後の活動でも、キャリア支援センターにはお世話になりました。履歴書の書き方など就職対策に関するアドバイスをいただいたほか、閲覧できる先輩方の受験報告書は面接や筆記試験対策にとっても役立ちました。また、経営学科で行った企業との合同プロジェクトを通し、多くのことを学べたのも活動のプラスになったと思います。

就職環境は厳しいですが、そのときできることを着実に行えば、必ず結果はついてきます。就職活動で悩んだり、困ったりしたら、気軽にキャリア支援センターに相談に行くといいと思います。



**短大の授業を生かし  
積極的な就職活動が  
行えました。**

**湯浅 成美**  
常磐短期大学キャリア教養学科2年

**●株式会社三井住友銀行 内定**

就職活動を終えた現在、三井住友銀行から内定がいただけて本当に頑張った良かったと思っています。就職活動を始めた頃は、住宅関係に絞った活動をしていました。しかし先輩から広く視野を持つようにアドバイスを受け、業界研究をやり直しました。その結果、関心を持ったのが金融業界。商業高校出身の私にとって、金融は身近な存在だったのです。

筆記試験対策を始めたのは10月頃。webテストが多いと聞いていたので徹底して勉強しました。また、短大の授業は実践に即したものが多く、社会人としてのマナーを覚えたり人前で話したりする授業なども行われます。私が内定をいただいたのも、こうした短大やキャリア支援センターのバックアップのおかげです。いまは早く一人前の社会人になり、職場で頼りにされる存在になりたいと思っています。

常磐大学大学院

News!

## 行動分析学の領域から、母親に対する子どもの愛着発達を研究

人間科学研究科修士課程2年の長谷川福子さんが、日本行動分析学会から「日本在住学生会員の\*ABA1/SQAB参加に対する助成金」を受け、5月27日から31日までアメリカで開催された国際行動分析学会でポスター発表を行った。研究テーマは、幼少期における愛着発達について。子どもが母親と他人のどちらかを選択する場合、母親という「質」はどの程度選択行動に影響するのかを早成性鳥類のヒナの刻印づけを用いた実験を通して数値化している。長谷川さんは「虐待を受けても母親から離れられない子どもがいることに疑問を感じ、研究に取り組みました。この研究を施設での対応策に応用できるよう、理論を構築していきたいと思います」と語る。長谷川さんは国内でも幅広い活動を行い、慶應義塾大学の研究会に参加するほか社会神経科学学会などとも交流を深めている。今後は、11月にスペインで開催される国際行動分析学会でも発表を行う予定だ。



長谷川福子さん

\*国際行動分析学会 (Association for Behavior Analysis International / 略称 ABAI)  
定量的行動分析学会 (Society for the Quantitative Analyses of Behavior / 略称 SQAB)

常磐大学・常磐短期大学

News!

## ビブリオバトル大学生大会で チャンプ本に選出

新宿・紀伊國屋ホールで6月27日に「ビブリオバトル in 紀伊國屋 大学生大会」が開催され、人間科学部現代社会学科2年の坂本和信さんがプレゼンした川口淳一郎著『はやぶさ、そうまでして君は』がチャンプ本に選ばれた。ビブリオバトルとは、参加者が好きな本を持ち寄り5分間スピーチ。その後、質疑応答を行い、最も読んでみたい本を観客と出場者の投票で選ぶ知的書評合戦だ。大会には首都圏の12大学が参加し、3組に分かれて推薦する本をアピールした。常磐大学では1月に常磐大学大会を開催し、ビブリオバトルの普及を支援している。坂本さんは「ビブリオバトルの魅力はほかの参加者の発表で、新しい本と出会えるところ。勝ち負けにはこだわらず楽しめます。秋に開催される首都決戦にも参加したいですね」と、抱負を語った。



坂本和信さん

## 視覚障がい者も楽しめる 「さわれる喜怒哀楽展」を開催

「さわれる喜怒哀楽展 in 汐博 2011」が、共同通信本社汐留メディアタワーで7月30日から8月24日まで開催された。この展示は、日本テレビ系列サマーイベント「汐留博覧会 2011」の公式イベント。昨年の「さわれる天体写真展」に引き続き、2回目の出展となる。作品はカプセルペーパーという特殊な紙を使い、写真を立体コピー化したもの。顔の表情をテーマに、感情表現をさわって確かめることができる。コミュニティ振興学部の「民間生涯学習」という授業の受講生が作品を制作し、中村正之ゼミナールの学生がパネルの貼り付けや点字を打つ作業などにあたった。中村ゼミに所属するコミュニティ文化学科3年の岡田織江さんは「“さわれる”ことに“きこえる”ことを連動させた資料作りにも挑戦したい」と意欲を見せた。



岡田織江さん



◀坂本さんが所属する、昨年4月に創設された常磐大学文藝部の練習や、自分たちの作品を掲載した文藝部誌の制作などを行っている。



◀会場にはカラー写真と立体コピーを並べて展示。また、点字による解説もつけられており、すべての人が楽しめるイベントとなった。

常磐大学高等学校 —各種大会での部活動の活躍—

News!

■男子バスケットボール部 インターハイ県大会で3位。主将の國府田悠太くん(3年)が茨城県高等学校体育連盟バスケットボール専門部優秀選手として表彰された。池元浩輝くん(3年)が国体選抜選手に選ばれ、茨城県代表として国体(関東ブロック予選)に出場。

■女子体操部 インターハイ県大会で団体優勝。インターハイ出場。

■水泳部 第62回関東高等学校水泳競技大会茨城県予選会で山村有里佳さん(1年)が飛び込み総合1位。関東大会出場。第66回国民体育大会(山口国体)出場。

■女子サッカー部 関東高校女子サッカー大会茨城県大会で優勝。関東大会出場。

■囲碁同好会 全国高等学校総合文化祭囲碁部門茨城県代表選考会で佐々木萌子さん(3年)が女子の部優勝。全国高等学校総合文化祭に出場。佐々木萌子さん(3年)、豊田優花さん(3年)、渡部優子さん(3年)が第35回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会に茨城県代表として出場。



女子サッカー部



囲碁同好会

智学館中等教育学校

News!

## 4年次青木未来さん、英語インタラクティブフォーラム県大会進出!



8月1日、茨城県立青少年会館で平成23年度英語インタラクティブフォーラムAブロック(水戸地区)大会が行われた。フォーラムでは、与えられたテーマについて1グループ3人から4人で、英語でディスカッションを行った。智学館からは代表として、4年次の青木未来さんと吉田鉄郎くんの2人が参加した。

昼休みや放課後にNETの先生と一生懸命練習に励んだ成果を発揮し、青木未来さんが9月20日に茨城県教育研修センターで行われる県大会への出場を果たした。惜しくも県大会への出場には至らなかったが、吉田くんも持ち前の英語力を存分に発揮し、積極的に英語でコミュニケーションをとることができた。県大会出場を決めた青木さんは「さらに練習を重ねて、自分の考えを英語で表現したい」と決意を新たにしていた。

吉田鉄郎くん(写真左)と、青木未来さん(写真右)。



常磐大学幼稚園

News!

## 育児に役立つ勉強会「人の脳の発達—ヒトから人へ」開催

常磐大学幼稚園が4回シリーズで実施する「育児に役立つ勉強会」の第1回が、5月18日に開催された。

講師を務めたのは、常磐大学人間科学部の秦順一教授。小児病理学の専門家としての立場から「人の脳の発達—ヒトから人へ」をテーマに講演していただいた。

秦先生は、人間の脳の構造と働きについて、胎児からの成長過程に沿って解説。また、脳の鍛え方などのアドバイスも行った。水戸市在住の参加者は「胎児の脳の発達に以前から関心があったので、わかりやすく解説していただきとても勉強になりました。次回も、ぜひ参加したいと思います」と、充実した内容を振り返っていた。



会場の幼稚園遊戯室には、約50人の参加者が集まった。

# 2010 年度財務状況報告 —2010 年度決算について—

## ■財産目録

財産目録は 2010 年度末における本学の財産と債務を記載した目録である。2010年度末の資産総額は 288億6,726 万円、負債総額は16億6,459万円で正味財産は272億266 万円となっている。

## ■貸借対照表

貸借対照表は 2010 年度末における本学の財政状態を表す。2010年度末の資産規模は 288 億 6,726 万円で、前年度より 6 億 5,331 万円の減少となった。これは、主に固定資産の減価償却によるものである。本学は 1997 年度以来無借

金経営を続けており総負債比率(総負債額÷総資産額×100)は5.7%と低く、短期的な支払能力を表す流動比率(流動資産÷流動負債×100)も452.5%と安定的な内容となっている。

## ■資金収支計算書

資金収支計算書は本学の 1 年間の活動に対応する収入と支出の内容と支払資金の顛末を表す。2010 年度の資金収支規模は 104 億 5,379 万円となり、主な収入項目としては学生生徒等納付金収入42億4,264万円、補助金収入9億9,974万円などがあり、支出項目としては人件費支出35億5,619万円、教育研究経費支出11億9,127万円などがある。

## ■財産目録 2011年3月31日 (単位:千円)

区 分	金 額
<b>資産額</b>	
基本財産	
土地 114,982.53㎡	4,471,206
建物 80,522.86㎡	14,246,248
図書 390,526冊	1,993,974
教具・校具・備品 28,798点	706,168
その他	32,909
運用財産	
現金預金	3,963,036
その他	3,453,726
収益事業用財産	0
<b>資産総額</b>	<b>28,867,267</b>
<b>負債額</b>	
固定負債	
長期借入金	0
その他	755,039
流動負債	
短期借入金	0
その他	909,559
<b>負債総額</b>	<b>1,664,598</b>
<b>正味財産(資産総額-負債総額)</b>	<b>27,202,669</b>

## ■貸借対照表 2011年3月31日 (単位:千円)

区 分	2010年度末	2009年度末	増 減
<b>固 定 資 産</b>	<b>24,750,734</b>	<b>24,793,088</b>	<b>△ 42,354</b>
有 形 固 定 資 産	21,422,435	21,902,604	△ 480,169
土 地	4,471,206	4,471,206	0
建 物	12,711,022	13,342,953	△ 631,931
構 築 物	1,196,747	1,353,220	△ 156,473
教育研究用機器備品	643,566	708,213	△ 64,647
その他の機器備品	62,602	75,841	△ 13,239
図 書	1,993,973	1,941,014	52,959
車 輛	4,840	6,167	△ 1,327
建 設 仮 勘 定	338,479	3,990	334,489
その他の固定資産	3,328,299	2,890,484	437,815
借 地 権	15,563	15,563	0
電 話 加 入 権	5,017	5,017	0
施 設 利 用 権	7,489	8,089	△ 600
敷 入 保 証 金	1,258	1,258	0
差 入 保 証 金	600,223	300,307	299,916
有 価 証 券	1,442,720	1,559,050	△ 116,330
第 2 号 基 本 金 引 当 資 産	1,254,829	1,000,000	254,829
第 3 号 基 本 金 引 当 資 産	1,200	1,200	0
流 動 資 産	4,116,533	4,727,493	△ 610,960
現 金 預 金	3,963,036	4,691,413	△ 728,377
未 収 入 金	152,748	34,583	118,165
立 替 金	749	1,497	△ 748
<b>資 産 の 部 合 計</b>	<b>28,867,267</b>	<b>29,520,581</b>	<b>△ 653,314</b>
<b>固 定 負 債</b>	<b>755,039</b>	<b>758,822</b>	<b>△ 3,783</b>
退 職 給 与 引 当 金	755,039	758,822	△ 3,783
流 動 負 債	909,559	975,724	△ 66,165
未 払 金	143,423	91,032	52,391
前 受 金	766,136	884,692	△ 118,556
<b>負 債 の 部 合 計</b>	<b>1,664,598</b>	<b>1,734,546</b>	<b>△ 69,948</b>
<b>基 本 金</b>	<b>34,292,147</b>	<b>33,989,341</b>	<b>302,806</b>
第 1 号 基 本 金	32,614,046	32,567,001	47,045
第 2 号 基 本 金	1,254,829	1,000,000	254,829
第 3 号 基 本 金	1,200	1,200	0
第 4 号 基 本 金	422,072	421,140	932
消 費 収 支 差 額	△ 7,089,478	△ 6,203,306	△ 886,172
翌年度繰越消費支出超過額	△ 7,089,478	△ 6,203,306	△ 886,172
<b>負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計</b>	<b>28,867,267</b>	<b>29,520,581</b>	<b>△ 653,314</b>



また次年度への繰越資金は39億6,303万円となり2009年度末より7億2,837万円の減少となった。これは、既存校舎の耐震補強・建替等のために積み立てられた第2号基本金引当資産6億円の支出などが主な要因である。

### ■消費収支計算書

消費収支計算書は1年間の消費収入・消費支出の内容とこれらの均衡の状態を表す。2010年度は消費収入53億6,932万円、消費支出62億5,549万円で8億8,617万円の支出超過となった。この中には、2011年3月11日の東日本大震災による高等学校5・6号館校舎の除却7,807万円などが含ま

れている。

2010年度は3月に東日本大震災が発生し本学も大きな影響を受けた。財務面においても学校法人の社会的使命を再認識し教職員一丸となって取り組んでいきたい。

◎2010年度の決算は、5月25日の理事会で決議され、同日、評議員会へ報告された。

### ■資金収支計算書 2010年4月1日から2011年3月31日まで 収入の部 (単位:千円)

科 目	2010年度予算	2010年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,234,675	4,242,643	△ 7,968
手数料収入	101,408	84,211	17,197
寄付金収入	35,000	9,312	25,688
補助金収入	981,820	999,744	△ 17,924
(国庫補助金収入)	497,914	521,196	△ 23,282
(地方公共団体補助金収入)	483,906	478,548	5,358
資産運用収入	87,276	71,418	15,858
資産売却収入	200,000	0	200,000
事業収入	63,989	96,741	△ 32,752
雑収入	136,754	159,822	△ 23,068
小 計	5,840,922	5,663,891	177,031
前受金収入	899,605	766,136	133,469
その他の収入	380,081	380,810	△ 729
資金収入調整勘定	△ 884,692	△1,048,460	163,768
前年度繰越支払資金	4,691,413	4,691,413	
収入の部合計	10,927,329	10,453,790	473,539

### 支出の部 (単位:千円)

科 目	2010年度予算	2010年度決算	差 異
人件費 給与支出	3,411,493	3,375,891	35,602
人件費 退職金等支出	156,315	180,303	△ 23,988
教育研究経費支出	1,409,948	1,191,277	218,671
管理経費支出	550,934	455,620	95,314
施設関係支出	402,562	353,628	48,934
設備関係支出	112,663	86,203	26,460
資産運用支出	800,000	600,000	200,000
小 計	6,843,915	6,242,922	600,993
その他の支出	91,033	391,255	△ 300,222
予備費	30,000		30,000
資金支出調整勘定	0	△ 143,423	143,423
次年度繰越支払資金	3,962,381	3,963,036	△ 655
支出の部合計	10,927,329	10,453,790	473,539

### ■消費収支計算書 2010年4月1日から2011年3月31日まで 消費収入の部 (単位:千円)

科 目	2010年度予算	2010年度決算	差 異
学生生徒等納付金	4,234,675	4,242,643	△ 7,968
手数料	101,408	84,211	17,197
寄付金	35,000	16,755	18,245
補助金	981,820	999,744	△ 17,924
(国庫補助金)	497,914	521,196	△ 23,282
(地方公共団体補助金)	483,906	478,548	5,358
資産運用収入	87,276	71,418	15,858
事業収入	63,989	96,741	△ 32,752
雑収入	136,754	160,616	△ 23,862
帰属収入合計	5,640,922	5,672,128	△ 31,206
基本金組入額合計	△ 378,113	△ 302,806	△ 75,307
消費収入の部合計	5,262,809	5,369,322	△ 106,513

### 消費支出の部 (単位:千円)

科 目	2010年度予算	2010年度決算	差 異
人件費 給与	3,411,493	3,375,891	35,602
人件費 退職金等	129,676	177,314	△ 47,638
教育研究経費	2,184,202	1,948,094	236,108
管理経費	658,356	548,773	109,583
資産処分差額	0	194,402	△ 194,402
徴収不能引当金繰入額	0	11,020	△ 11,020
予備費	30,000		30,000
消費支出の部合計	6,413,727	6,255,494	158,233
当年度消費支出超過額(△)	△ 1,150,918	△ 886,172	
前年度繰越消費支出超過額(△)	△ 6,203,306	△ 6,203,306	
翌年度繰越消費支出超過額(△)	△ 7,354,224	△ 7,089,478	

# 2010年度事業報告

## 法人関連事業

### ① 開学 100 周年記念事業

- ・開学 100 周年記念事業募金 (2011 年 3 月 31 日現在)
  - 目標金額 100,000,000 円
  - 寄付金総額 64,734,326 円
  - 募金件数 1,061 件
- ・諸澤幸雄奨学金給付
  - 内 容：心身・学術ともに優れ、経済的に学業の継続が困難となった者 (I 種)、または家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難となった者 (II 種) に対し、奨学金を給付し、公平な修学機会を与えることによって、有為な人材の育成に資する
  - 給付人数等：大 学 I 種奨学生 8 名 / II 種奨学生 2 名
  - 短期大学 I 種奨学生 1 名 / II 種奨学生 1 名
  - 高等学校 I 種奨学生 7 名 / II 種奨学生 1 名
- ・教育実践研究所 2010 年夏期シンポジウム
  - 期 間：2010 年 8 月 26 日から 8 月 28 日まで
  - 場 所：見和キャンパス内
  - テーマ：『多言語・多文化社会におけるこれからの教育 一違いを超え、豊かな個を育むために』
  - 参加者：278 名
- ・百周年史制作 (2 年次)
  - 内 容：学校法人常磐大学の歴史と今後の展望を中心とした記念史の制作 (2011 年度まで)
- ・開学 100 周年記念講演会 (第 3 回)
  - 開催日：2010 年 9 月 25 日
  - 場 所：見和キャンパス内
  - 講 師：藪野健 (画家、日本藝術院会員、早稲田大学理工学術院表現工学科教授)
  - テーマ：『藝術の可能性 一今日のコミュニケーションや社会生活の閉塞状況を打破する方法として』
  - 参加者：110 名
- ・開学 100 周年記念講演会 (第 4 回)
  - 開催日：2011 年 2 月 19 日
  - 場 所：見和キャンパス内
  - 講 師：土井香苗 (国際 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表、弁護士)
  - テーマ：『国際人権活動から日本を見つめ直す』
  - 参加者：136 名

### ② 事務職員海外研修

- 内 容：「学校法人常磐大学の設置する学校の事務職員海外研修に関する規程」第 8 条第 3 項に基づき、事務職員の海外研修 (語学研修) を実施
- 派遣人数：2 名
- 派遣先：アメリカおよびオーストラリア (各 1 名)
- 派遣期間：2010 年 9 月～10 月 (概ね 1 ヶ月間)

### ③ 人事給与システムリプレイス

- 内 容：現行システムのリース期間満了に伴う人事給与システムのリプレイス

### ④ 内部監査の実施

- 内 容：高等学校、中等教育学校および幼稚園に関する事務部門について、業務計画、予算管理、資産管理、教育、労務管理および事務管理の側面から業務監査を実施

## 大学・短期大学関連事業

### ① Q 棟センターホール遠隔講義システムの整備

- 内 容：芝浦サテライトキャンパス 402 号室と見和キャンパス Q 棟センターホールとの遠隔講義システムの整備

### ② 図書システムリプレイス

- 内 容：ハードウェア機器の製造中止、保守契約解約等に伴い、リプレイスを実施し、安定的な運用・サービス提供を継続

### ③ 学生ポータルシステム (学生向け情報提供システム) の導入

- 内 容：個人を特定したうえでのパーソナルな情報提供を可能にする学生ポータル (学生向け情報提供) システムを導入し、大学から提供される情報へのアクセスをキャンパス外からも可能にすることでキャンパス空間の拡大を実現

### ④ T 棟学生ホール無線 LAN

- 内 容：インターネット接続を無線 LAN 化

## 地域等連携関連事業

### ① 「常磐大学 & 水戸ホーリーホックコラボデー」開催

- 内 容：水戸ホーリーホックのホームスタジアムへの観客を増やし、そのにぎわいを地域の活性化につなげると同時に、学校法人常磐大学が設置する各学校の学生や生徒、園児らに新たな教育場面を提供することで、豊かな人間性を持った優れた人材を育成する効果も期待し、水戸ホーリーホックの試合運営およびイベントに参加・協力

開催日：2010 年 8 月 29 日

### ② 外国大学連携

- a) 大邱サイバー大学 (韓国) との連携協力協定締結
  - 目 的：大学相互間のあらゆる教育リソースの交流を促進する
  - 調印式：2010 年 9 月 9 日
- b) O. P. JINDAL GLOBAL UNIVERSITY (インド) との連携協力協定締結
  - 目 的：大学相互間のあらゆる教育リソースの交流を促進するとともに、本学「被害者学研究所」(TIVI) と O. P. JINDAL GLOBAL UNIVERSITY の「人権研究センター」(the Centre for Human Rights Studies) および「刑罰学、刑事裁判ならびに警察学センター」(the Center for Penology, Criminal Justice, and Police Studies) の分野において広範囲にわたる協力を行う
  - 調印式：2010 年 11 月 4 日

### ③ 官産学連携

- a) 社団法人茨城県経営者協会「産学連携講座」開設 (4 年目)
  - 目 的：茨城県を代表する企業経営者および管理者による講義を通して、地域経済の実態と各社の実践する経営活動等について理解を深めるとともに、社会人として必要な心構えや能力を育成する
  - 調印式：2010 年 4 月 15 日
- b) 読売新聞東京本社水戸支局・常磐大学連携事業「連続市民講座」開設 (3 年目)
  - 内 容：地域の人々と大学を結び、幅広い年代の学ぶ意欲に応えていく試みとして、読売新聞東京本社水戸支局との共催により、「地域社会への包摂と教育の可能性 一たおやかな地域社会の再生に向けて」を大きなテーマとして、全 7 回の講座および 2 回のシンポジウムを開催
  - 開講式：2010 年 5 月 22 日

## 施設・設備整備事業

### ① 見和キャンパス校舎改修等

- a) A 棟屋上防水工事
  - 内 容：屋上屋根防水修繕工事
- b) E 棟外装修繕工事
  - 内 容：外壁の全面的補修ならびに外装および屋上屋根防水修繕工事
- c) K 棟 3 階改修工事
  - 内 容：既存施設の有効利用計画に基づく教室活用のための改修工事
- d) L 棟屋上屋根防水修繕工事
  - 内 容：屋上防水シート交換修繕工事
- e) R 棟教室床改修工事
  - 内 容：R001～004、103 の 5 教室のカーペット修繕工事
- f) 構内地上デジタル放送受信アンテナ工事
  - 内 容：2011 年地上アナログ放送終了に伴うアンテナ工事
- g) A 棟耐震診断計画
  - 内 容：現行耐震基準 (昭和 56 年) 以前の建築物の耐震診断
- h) 大学・短期大学職員駐車場整備工事

内 容：茜梅寮隣接地の未使用地を職員駐車場と連結させ、職員駐車場として整備

i) 常磐大学幼稚園改修工事

内 容：園舎外装塗装修繕工事

② 新荘キャンパス校舎改修等

a) 高等学校講堂空調GHP入替工事

内 容：空調機械を吸収式冷水機型からGHP型へ入替

b) 高等学校3号館・新3号館屋上防水等修繕工事

内 容：屋上防水、鉄骨階段塗装およびシーリング修繕工事

c) 高等学校5・6号館耐震診断計画

内 容：現行耐震基準（昭和56年）以前の建築物の耐震診断

③ 小吹キャンパス校舎等改修等

a) 中等教育学校校舎Ⅱ期建築工事

内 容：2011年度後期課程開始に伴う校舎Ⅱ期建築工事

地鎮祭：2010年7月6日

引渡し：2011年4月11日

b) 小吹グラウンド整備工事

内 容：野球場の雨天練習場側ネット増設および部室棟外装塗装修繕工事

第16号 寄附行為第25条第1項第1号に規定する評議員の選任に関する件

臨時第1回理事会 2011年2月23日 開催

現在数 11名（出席者11名／委任状出席0名／欠席者0名）

監事出席 2名

<審議>

第1号 寄附行為第6条第1項第3号に規定する理事の選任に関する件

第2号 寄附行為第6条第1項第4号に規定する常任理事の選任に関する件

第3号 寄附行為第25条第1項第2号に規定する評議員の選任に関する件

第4号 役職者人事に関する件

第6回理事会 2011年3月31日 開催

現在数 11名（書面表決者11名／委任状出席0名／欠席者0名）

監 事 2名

<審議>

第17号 寄附行為第6条第1項第1号に規定する理事の選任に関する件

第18号 常磐大学大学院学則の一部変更に関する件

第19号 智学館中等教育学校学則の一部変更に関する件

第20号 学校法人常磐大学給与規程の一部変更に関する件

第21号 2011年度事業計画に関する件

第22号 2011年度収支予算に関する件

## 2010年度理事会等開催状況

### 1) 理事会開催状況

第1回理事会 2010年5月20日 開催

現在数 11名（出席者7名／委任状出席4名／欠席者0名）

監事出席 2名

<審議>

第1号 2009年度事業実績(案)に関する件

第2号 2009年度収支決算(案)に関する件

第2回理事会 2010年5月20日 開催

出席者 9名（現在数11名／委任状出席2名／欠席者0名）

監事出席 2名

<審議>

第3号 寄附行為第25条第1項第3号に規定する評議員の選任に関する件

第4号 第2号基本金組入れに関する件

第5号 2010年度収支補正予算に関する件

第6号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件

第7号 常磐大学高等学校学則の一部変更に関する件

第3回理事会 2010年9月9日 開催

現在数 11名（出席者10名／委任状出席1名／欠席者0名）

監事出席 2名

<審議>

第8号 役職者人事に関する件

第9号 2011年度学生生徒等納付金に関する件

第4回理事会 2010年11月26日 開催

現在数 11名（出席者9名／委任状出席2名／欠席者0名）

監事出席 1名

<審議>

第10号 常磐大学学長および常磐短期大学学長の選任に関する件

第11号 常磐大学学則の一部変更に関する件

第12号 常磐短期大学学則の一部変更に関する件

第13号 資産運用に関する件

第5回理事会 2011年2月1日 開催

現在数 11名（出席者11名／委任状出席0名／欠席者0名）

監事出席 1名

<審議>

第14号 寄附行為第6条第1項第4号に規定する常任理事の選任に関する件

第15号 役職者人事に関する件

### 2) 評議員会開催状況

第1回評議員会 2010年5月20日 開催

現在数 23名（出席者15名／委任状出席8名／欠席者0名）

<諮問>

第1号 第2号基本金組入れに関する件

第2号 2010年度収支補正予算に関する件

第3号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件

第4号 常磐大学高等学校学則の一部変更に関する件

第2回評議員会 2010年9月9日 開催

現在数 23名（出席者15名／委任状出席8名／欠席者0名）

<審議>

第1号 寄附行為第25条第1項第4号に規定する評議員の選任に関する件

第2号 寄附行為第6条第1項第2号に規定する理事の選任に関する件

<諮問>

第5号 2011年度学生生徒等納付金に関する件

第6号 学校法人常磐大学開学100周年記念事業募金に関する件

第3回評議員会 2010年11月26日 開催

現在数 23名（出席者16名／委任状出席7名／欠席者0名）

<諮問>

第7号 常磐大学学則の一部変更に関する件

第8号 常磐短期大学学則の一部変更に関する件

第9号 資産運用に関する件

第4回評議員会 2011年3月31日 開催

現在数 23名（書面表決者23名／委任状出席0名／欠席者0名）

<諮問>

第10号 常磐大学大学院学則の一部変更に関する件

第11号 智学館中等教育学校学則の一部変更に関する件

第12号 2011年度事業計画に関する件

第13号 2011年度収支予算に関する件

**寄付者ご芳名** (敬称略) [2011年4月~6月受付分]

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。

■学校法人常磐大学東日本大震災被災学生・生徒支援義援金

個人	
300,000円	10,000円
伊田 政司	大島 和子
中川 昌次郎	落合 真希
100,000円	伊達 幸輝
石川 勝博	深谷 昌子
Kumaravelu	福本 千尋
Chockalingam	堀部 由佳子
栄 省三、陽子	5,000円
福原 真知子	鶴田 真維子
保坂 泰夫	3,000円
50,000円	荻沼 恵
佐々木 宏	2,000円
30,000円	黒田 雪江
鈴木 宏昭	芳名のみ公表
久松 雄大	Gerd Kirchhoff
20,000円	中川 健司
小河原 保子	中村 英三
保坂 貴久代	松原 哲哉
12,000円	
慶應義塾普通部元3D一同	
世話人 大久保厚子	

累計寄付金額 2,652,000円

■PEP(フェニックス教育プロジェクト)

個人	
300,000円	50,000円
佐久間 保、まり子	花田 洋子

累計寄付金額 350,000円

編集後記



水戸ホーリーホックとコラボデーを開催したケースデンキスタジアム水戸は、震災による損傷が激しく、メインスタンドへの立ち入りは禁止されていました。東日本大震災から約半年。県内にはまだ復旧への長い道程を歩む地域が多く残されています。長期にわたる支援の重要性を、再認識する一日となりました。

■教育実践研究所の行う事業支援

個人	
340,000円	諸澤 篤子 *

累計寄付金額 340,000円

■諸澤幸雄奨学金の創設・充実

個人	
260,000円	17,000円
竹中 治利 *	清宮 一彦 *
200,000円	久松 雄大 *
伊田 政司	12,000円
145,000円	坂井 知志 *
中村 和彦 *	5,000円
100,000円	黒田 雪江
永田 弘見	芳名のみ公表
70,000円	石田 喜美 *
保坂 泰夫 *	工藤 典人 *
36,000円	小岩 美知子
大槻 行徳 *	清水 敏成 *
関 敦央 *	関 いづみ *
32,000円	千葉 茂 *
鈴木 辰一 *	

累計寄付金額 63,139,326円

◎「教育実践研究所の行う事業支援」、「諸澤幸雄奨学金の創設・充実」それぞれについて、複数回お申し込みくださいました方は芳名に\*を付し、金額は累計額を表示いたしました。

【寄付金の申し込みおよび問い合わせ】

学校法人常磐大学 会計経理課

TEL. 029-232-2759 E-mail : kifu@tokiwa.ac.jp

※寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

諸澤幸雄奨学金奨学生決定

9月29日、諸澤幸雄奨学金の奨学生に決定した常磐大学・常磐短期大学の学生に対し、諸澤英道理事長から奨学生決定通知書が手渡された。今回奨学生に決定したのは、Ⅰ種奨学生10人、Ⅱ種奨学生4人の計14人。



information

お知らせ

★常磐大学・常磐短期大学 学園祭「ときわ祭」開催!!

10月29日(土)・30日(日) 両日とも 10:00~16:00

◎ゼミナール研究発表、サークル発表、模擬店、お笑いライブ、コスプレ大会など楽しい企画が盛りだくさんです。ぜひご来場ください。

◎詳しくは <http://www.tokiwa.ac.jp/campuslife/festival/>

